

第3回 弓浜助け合いネットワーク 意見発表

1	米子市の取り組みについて 米子市福祉政策室 和泉憲明氏
2	「地域福祉(福祉のまちづくり)推進事業の取り組み」 米子市社会福祉協議会 田村圭介氏
3	大篠津:「高齢者と児童への支援」 大篠津地区民生児童委員協議会民生児童委員 本池智恵子氏
4	和田:「じげのてごしあいこ」いきいきサロン十日会の夢 和田地区民生児童委員協議会民生児童委員 矢倉敏彦氏
5	彦名:「彦名地区地域福祉の現状と今後の取り組みについて」 彦名公民館館長 定岡淳二氏
6	夜見:「見守りと育ちのなかで生まれるものは…」 夜見地区民生児童委員協議会主任児童委員 松本知砂江氏
7	富益:「ふれあいの給食サービス活動」 富益在宅福祉委員会 足立京子氏
8	崎津:「地域福祉推進事業ならびにいきいきサロンの実施状況」 崎津地区社会福祉協議会会長 角 頼政氏
9	「弓浜のまちづくりはネットワークで!」 米子市弓浜地域包括支援センター 小坂 一氏

# 動き出した協働 芽生え始めた自立意識

## 弓浜助け合いネットワーク



地域の取り組みを報告する代表者ら

本格的な少子高齢化社会を迎え、これまで以上に住民同士の助け合いのネットワークが重要になりつつある。こうした中、米子市の弓浜地区では高齢でも障がいがあっても住み慣れた町で安心して暮らしていくために「住民ネットワーク」の活動が活発になっている。行政とNPO法人や社会福祉法人、そして住民が一体となって広がりつつある「協働」のまちづくりを紹介する。

# 高齢者、子どもも連携支援

福祉のまちづくり実現に向けて連携を深めようとして、十二月二日に弓浜ホスピタウン(同市大崎)で開かれた「第三回弓浜助け合いネットワーク」米子市社会福祉法人真誠会、NPO法人がいなネットには、同地区の六小学校区の民生児童委員や



地域福祉の実践について理解を深める参加者

行政、公民館、社協の関係者、ボランティアなど約三百人が参加。テーマは「子どもを支える助け合いネットワーク」で、各地域の代表者が高齢者の「ふれあい・いきいきサロン」や給食サービス、児童の見守り活動などの地域の活動を報告した。

### 10年後を見据えて

団塊世代が大量退職の時期を迎えるなど、今後は高齢者人口がますます増加する。これに伴い、身体機能の衰えや認知症のために自宅では生活できなくなるお年寄りが増えることも予想される。しかし、高齢者施設の収容能力には限界があり、行き場のない人が出てくる恐れもある。

### より高いレベルへ

ネットワークは二〇〇五年度から始まった。校区を超えて意見交換をする場合は市内でも限られており、同地区での取り組みは異例ともいえる。近隣地域の事例発表を通じて地域福祉に対する理解を深め、現状の課題を整理。より高いレベルを目指して切磋琢磨(せつたくま)する好循環が生まれている。

### 「助け合い」の進化

今回の発表でも各地区代表が積極的に発表。高齢者対策として、高齢者世帯に対する配食サービスや「ひとり暮らし」の見守り、声掛け「ふれあい・いきいきサロン」の開催。青少年育成では、見守りパトロール隊の結成やあいさつ運動、老人会や地域住民との交流活動、子育てサークルの支援。障がい児・障がい者福祉については、地域内の障がい者施設との相互交流、石油に代わるバイオディーゼル燃料の精製、販売し乗り出した施設を支援する事例に賛意を寄せた。

### 「助け合い」の進化

このうち「ふれあい・いきいきサロン」は、高齢者が閉じこもりがちにならないよう、各地区が自主的に集会所などで茶話会や健康講座を開く事業。市社会福祉協議会が提唱し、〇七年度は九十九カ所で開設されている。このうち同地区には二十六カ所と実に市全体の四分の一が集中しており、取り組み自体が盛ん。そこで、市弓浜地域包括支援センターはこのサロンの活動を一環として、介護認知症予防や家庭で手軽にできる運動を独自に指導し、連携を深めている。

### 「助け合い」の進化

また意見発表では、実際に独居老人の危機を救った事例も報告された。富益地区の七十歳の男性は近所付き合いが苦手で、給食サービスも受けていなかった。しかし、たまたま民生委員が「つたつた」弁当をこの男性に届けたところ、体調を崩して衰弱している男性を発見し、「命を取り留めた。その後、元気を取り戻した男性は少しずつ住民との交流を深めているという。まさに地域の助け合いが生んだ「ファイナル」だった。

### 「助け合い」の進化

「こいつささいなことでも助け合いになる」という認識が徐々に深まりつつある。「地域福祉」と天上段に構えるのではなく、自分たちができることから取り組むことで地域が変わる。ネットワークの取り組みは、高齢化社会でも可能な地域活性化のモデルケースといえる。

## 地域の方で安心社会に

社会福祉法人真誠会・NPO法人がいなネット理事長 小田 貢氏

弓浜助け合いネットワークシンポジウムは今回で3回目となりました。3年前に少子高齢社会、国、地方自治体の経済的支援への危機感から、地域における助け合いの重要性の見直し、そして団結、情報交換のためのネットワークの構築の重要性について地域の住民の皆様が理解していただくために始めました。



このシンポジウムも2回、3回と回を重ねるごとに地域住民の皆さんの理解も高まり、また実際に地域でいろいろな活動

の芽生えと成長がはつきり見えるようになってきました。高齢者のサロン活動も量、質ともに充実し、認知症サポーターの数も増えてきました。今後もこのネットワークシンポジウムのさらなる発展と、地域の自助、共助への力強い意識の盛り上がりを楽しみにしております。

## 独自活動さらに推進を

米子市福祉政策室室長 前谷 寛氏

地域福祉とは高齢、障がい、そのほかのさまざまな事情で福祉サービスを受けるようになってからも、これまで通りの生活を送れるような地域社会をつくることです。米子市と市社会福祉協議会は、さまざまな団体と協力してまちづくりを進めています。その充実には住民の参画が不可欠です。



2007年度から市内に4つのモデル地区を設けていますが、選定された崎津地区をはじめ、弓浜地区は全体で非常に熱心に

取り組んでもらっている」と認識しています。弓浜助け合いネットワークには、活動している団体同士でお互いの顔が分かるようになり、情報交換できる利点があります。

核家族化、個人主義が進む中、現代社会が抱える弊害を解決するには、地域社会の再構築が必要です。弓浜地域では同センターを中心に独自の活動をますます盛り上げてもらうことを期待します。

## 新しい形の「助け合い」

米子市弓浜地域包括支援センター 主任介護支援専門員 安田 博子氏

介護保険法の改正を契機に公的サービスではカバーできなくなることが増えて、できることは地域で助け合おう、地域のつながりを取り戻そうと、地域包括支援センターができた。地域で既に行なわれている助け合いの取り組みを紹介したり、弓浜地区で盛んな「いきいき・ふれあいサロン」で介護予防や認知症の知識を指導しています。



元々、茶話会として始まったサロンが介護予防の拠点にもなっています。

「サロンのいいところは、来てくれる人が来なければ、「電話をしてみようか」ということにもなります。昔とは違う形でお互いを心配し合うのもサロンが

<b>米子ホスピタウン(医療福祉のまち)</b> 米子市河崎581-3 TEL.0859-24-5666	<b>弓浜ホスピタウン(保健福祉のまち)</b> 米子市大崎1511-1 TEL.0859-48-2331	<b>在宅福祉センター真誠会(在宅福祉のまち)</b> 米子市富益235-8 TEL.0859-25-6811	
<b>小規模多機能センター 真誠会 ふる里(助け合いのまち)</b> 米子市和町17225 TEL.0859-25-1112	<b>辻田耳鼻咽喉科医院</b> 米子市河崎605-1 TEL.0859-29-1187	<b>いえはら歯科</b> 米子市河崎575-1 TEL.0859-29-6599	<b>中下 泌尿器科 皮膚科 医院</b> 米子市河崎566-2 TEL.0859-24-1727

「弓浜助け合いネットワーク」の更なる発展にご期待いたします。

あだち石油(有)	山陰アイホー調理機(株)	(株)さんれいフーズ	三和商事(株)	(株)永江印祥堂米子店
(有)花の館よみ	はらガス産業(株)	(有)原文タイプ米子支店	(株)ニチイ学館松江支店	安酸社会保険労務士事務所
(有)米子プラスチック	フジ・レスピロニクス(株)	よみドライ	豊田工芸	和幸電通(株)
(有)宇山事務機	三光(株)	新鋭工業(株)	東京印刷(株)	鳥取りコー(株)
永瀬石油(株)パートナー三柳SS	(有)双美商会	(株)備中屋本店	(有)福井事務機	(株)福山臨床検査センター
松本油店	水野商事(株)	ワタキューセイモア(株)中国支店米子営業所	アスカ保険サービス	医業経営コンサルタント(経営)有和寛之
(有)いけまつ環境	石谷商事(有)	石橋石油店	(有)井上商店	米子全日空ホテル
大王製紙(株)	日産プリンス鳥取販売(株)米子支店	(株)ホテルサンルート米子	山根商事(株)	米子ガス(株)
西日本三菱自動車販売(株)山陰支店境港店				(順不同)